

(様式4)

富山県教育委員会教育長 殿

平成30年3月12日

富山県立石動高等学校
校長 安田 孝志

平成29年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

平成29年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

「学習活動」「学校生活」「進路支援」「特別活動」の4領域で重点項目・課題を決め、それぞれに達成目標を設けて取り組んだ。今年度は、重点項目「学習活動」「特別活動」が3年目であり、昨年度の反省・課題を踏まえて取り組んだ。他の領域の重点項目については、継続的に重点課題に取り組みながら、生徒の活動意欲が引き出せるようその内容を一部改めた。各重点課題の評価等の概要は以下の通りである。

(具体的な取組状況や評価の詳細は <別紙 様式5> に 記載)

(1) 基礎学力の向上と授業に対する取り組み方

授業に対する取組状況や、主体的・協働的な学びや教師の授業内容や方法について授業満足度調査を年2回実施し、日頃の予習・復習や課題の取り組み方を振り返った。今後は、教員自らが授業の再点検と改善・見直しをおこない学習習慣の定着につなげたい。

商業科では、生徒自らが目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには商業科目の基礎をしっかりと身につけた上で、自らの力を向上させていく必要がある。授業では、常に効果的な指導を模索し、工夫していくことが求められる。検定取得は、学ぶ意欲や進路目標の達成にもつながっている。

(2) 規範意識の向上と規則正しい学校生活の確立

富山ネットルールづくりモデル校として、生徒が自ら学校ネットルール作りに参加し、ネットルール4箇条を作成し、学校の意識高揚を図った。また、1年生を対象に情報モラル教室を実施し、ルール・マナーアップの向上に努めた。今後も継続して、全校集会での注意喚起により、トラブルの未然防止に努めるとともに生徒が主体として注意し合えるネット環境を作るなど指導の充実を図り、これからも規範意識を高めていく必要がある。

(3) 進路意識の向上と進路目標の早期設定

進路支援プログラムの事前・事後学習及び考査後の進路学習を充実させ、年間を通じて継続的・継続的な進路研究の場を提供し、進路意識の高揚を図った。生徒の能力や意欲を正確に把握し、進路目標の実現に向けて取り組んだ結果、取組満足度は全体としては、「ほぼ達成」できた。次年度へ向けて、各進路支援の取組の自己評価を工夫し、進路意識の高揚と早期の進路決定につなげていきたい。また、進路達成に向けて普段の学習を基礎とし、学力向上に向けての取組を積極的に実施していく必要がある。

(4) 学校行事に対する能動的参加の推進

学校行事に対して全校生徒が意欲的に取り組み、集団活動や体験活動を通して豊かな学校生活を築きながら連帯意識を育むことができた。特に体育大会では生徒会が中心となって大会テーマや生徒会種目の競技などの検討を進め、生徒の思いに沿った活動内容となった。また、文化部発表会では、合唱コンクールや生徒会の取組みにおいて、例年以上の盛り上がりを見せ、能動的な活動に繋げることができた。

7 次年度へ向けての課題と方策

(1) 生徒が生涯にわたって継続的に学び続ける基礎作りをするために教師の専門性を高め、教科指導の向上を図るためにアクティブ・ラーニングを取り入れた教科指導の実践を目指していきたい。検定取得については、1級3種目以上の合格者が17名と目標を達成することができた。今後とも粘り強く指導を行い、上級の資格取得に向かってチャレンジしようとする意欲を持たせたい。

(2) スマートフォンの利用に関して、今年度生徒会が立ち上げた「学校ネットルール4箇条」を生徒自らが守っていくことができる学校として推進していきたい。

(3) 家庭学習の習慣化・基礎力の育成・実力養成に努め、進路指導体制を構築していく必要がある。

(4) 体育大会や文化部発表会といった生徒会行事を、生徒が主体的に企画・運営できるように支援することで特別活動を今まで以上に活性化させる必要がある。また、ボランティア活動においても積極的に取り組めるように環境を整えていくことが課題である。

(様式5)

平成29年度 石動高等学校アクションプラン ー 1 ー																					
重点項目	学習習慣の定着と基礎学力の伸長																				
重点課題	基礎学力の向上と授業に対する取り組み方																				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎学力の向上と授業に対する取り組み方(アクティブラーニングの取り組み状況)」という重点課題で、日々の授業を振り返り、授業に対する取り組み状況、主体的・協働的な学びや教師の授業内容や方法について授業満足度調査を年間2回のアンケートを実施し、分析することで日頃の予習・復習や課題の取り組み方を振り返るとともに、教員自らが授業の再点検と改善・見直しをおこなうことにより学習習慣の定着と基礎学力の伸長につなげたい。 ・商業科の生徒はそれぞれの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには、高校に入ってから学ぶ商業科目の基礎をしっかりと身に付けた上で、それぞれの検定に合わせて自らの力を向上させていく必要がある。授業においても、生徒の学力を伸ばし、検定取得につながるように、常に効果的な指導を模索し工夫していくことが求められる。検定取得が生徒の学ぶ意欲や進路目標の達成にもつながっている。 																				
達成目標	<p>1. 授業のアンケート(授業内容や方法について)でB以上の割合</p> <p>(1) 授業の内容・説明の理解度について。 (2) 主体的・協働的な学びについて。 (3) 授業のスピードについて。 (4) 説明の言葉や声量について。 (5) 授業内容の興味・関心について。 (6) 質問事項の説明について。 (7) 課題の質や分量について。 (8) 授業の開始や終了時間について。 (9) 生徒の指導について。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>とてもそう思う。大変評価できる。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>ややそう思う。ほぼ評価できる。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>あまりそう思わない。あまり評価できない。</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>全くそう思わない。全く評価できない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>②商業科：卒業までに全商主催検定9種目中、3種目以上で1級を取得した生徒数</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>(1)簿記</td> <td>(6)珠算</td> </tr> <tr> <td>(2)リーフ[®]</td> <td>(7)電卓</td> </tr> <tr> <td>(3)ビズ初情報</td> <td>(8)英語</td> </tr> <tr> <td>(4)プログラミング</td> <td>(9)会計実務</td> </tr> <tr> <td>(5)商業経済</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価	評価基準	A	とてもそう思う。大変評価できる。	B	ややそう思う。ほぼ評価できる。	C	あまりそう思わない。あまり評価できない。	D	全くそう思わない。全く評価できない。	(1)簿記	(6)珠算	(2)リーフ [®]	(7)電卓	(3)ビズ初情報	(8)英語	(4)プログラミング	(9)会計実務	(5)商業経済	
評価	評価基準																				
A	とてもそう思う。大変評価できる。																				
B	ややそう思う。ほぼ評価できる。																				
C	あまりそう思わない。あまり評価できない。																				
D	全くそう思わない。全く評価できない。																				
(1)簿記	(6)珠算																				
(2)リーフ [®]	(7)電卓																				
(3)ビズ初情報	(8)英語																				
(4)プログラミング	(9)会計実務																				
(5)商業経済																					
	<p>評価B以上が75%以上</p> <p>10人以上(卒業年度)</p>																				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業や教科研修を重ね、本校生徒に合った授業内容や方法を創意・工夫している。 ・朝や放課後の補習授業を実施する。 ・商業関連部活動を充実させる。 ・3年生1級未取得者に対する特別受験指導を実施する。 ・教員の指導力向上のための校内研修会を充実させるとともに、校外で開催されるセミナー等へ積極的に参加するよう努める。 																				
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学期末考査で評価B以上が82.9% ・全商主催検定1級3種目以上合格者17名(昨年同時期17名) 																				
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員に指導力向上に向けた講座や公開授業・研究協議会を案内し積極的な参加を促す。 ・商業科教員の連絡を密にして個々の生徒の弱点が克服できるように資格・検定取得に向けて、各授業や朝・放課後等の補習や質問教室を実施した。 																				
評 価	A																				
学校関係者の意見	<p>今後、AI(人工知能)の導入により変化する実社会に適応できる商業教育をお願いしたい。</p>																				
次年度へ向けての課題	<p>生徒は2月4日の検定まで粘り強く取り組み、1級3種目以上合格所得者が17名と目標を達成する事ができた。今年度は5種目6名4種目7名と大変頑張った生徒がいた。資格取得が進路に直結する意識が高まったことと、サポートする教員側の指導がうまくかみ合った成果だと思う。</p>																				

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活（心身ともに健全な人格の育成）
重点課題	規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの普及に伴い、使用ルールやマナーを守らない生徒や依存症の生徒も見られる。 ・携帯電話やパソコンに関するアンケート結果より、携帯電話・スマートフォンの使用時間が23時以降していない率は、平成27年度52.5%、平成28年度52.7%となった。また、平日3時間以上使用している生徒は、47.1%となり、長時間使用が、生活のリズムを崩し、家庭学習時間の確保の妨げになっている。 ・昨年度、富山ネットルールづくりモデル事業モデル校として、生徒が自ら学校ネットルール4箇条を決定し、働きかけたが、規範意識の低い生徒も多い状況である
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話（スマートフォン）の23時以降の使用しない率 ・70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話で違反した生徒には、携帯電話を預かり、保護者の協力を得ながら、違反者本人に反省を促すと共に、使用に関してのルール、マナーの意識の向上をはかる。 ・イレブンセブン運動を積極的に推進し、携帯電話やパソコンに関するアンケートを年間2回実施で実態を把握し、夜11時以降の使用を控えさせ、ネット依存にならないよう指導を行う。 ・情報モラルやセキュリティの意識の向上を図るために、授業だけでなく学習する機会を増すと同時に教職員も携帯電話に関する知識を深める機会を作り、生徒への指導を充実させる。 ・PTA総会や各学期の保護者会等で保護者への協力を要請する。 ・生徒主体の活動を通じて、生徒自身で考え注意できる環境を作る等指導の充実を図る。
達 成 度	携帯電話（スマートフォン）の23時以降の使用しない率 平日 51% (12/5 現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話やパソコンに関するアンケート調査を全校生徒対象に実施した。（※参考資料①） ・ネット依存のチェックリストを全校生徒対象に実施し、結果については、1・2学期の保護者会で面談の際に利用した。 ・7月に1年生を対象として、外部講師による情報モラル教室の中で携帯電話のルール、マナーアップ、ネットトラブルについて指導を受け、啓発する機会を設けた。 ・昨年度と同様に、富山ネットルールづくりモデル事業モデル校として、生徒が自ら学校ネットルール作りを実施し、ネットルール4箇条を決定し、生徒自らネットとの関わり方について考え、意識の高揚をはかった。
評 価	C
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットトラブル、スマホ依存が、大きな社会問題になっている状況の中、今後も継続して、家庭の協力も得ながら家庭ルールを決める・生徒個人の目標・クラスでの目標を持つなど生徒主体の活動を通じて、粘り強く指導してほしい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット依存のチェックリストを定期的実施し、生活習慣の改善や自己管理について注意喚起する必要がある。 ・SNSの利用に関して、身近な事例を提示し、ネットの危険性や正しい使用法を指導する。 ・今後も継続して、面接や集会での注意喚起によりトラブルの未然防止に努める。 ・ネットトラブル、スマホ依存の問題では、生徒主体の活動を通じて、生徒自身で考え注意できる環境を作るなど指導の充実を図り、規範意識をより高めていきたい。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	進路支援（自己実現に向けて生徒自らが努力するための支援の充実）																	
重点課題	進路意識の向上と進路目標の早期設定																	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の進路選択とその実現のために本校独自の様々な進路支援プログラムを行っているが、各プログラムに積極的に自己の進路につなげて考えようとする姿勢が足りなくなっている。 早期に具体的な進路目標が決まらず、進路の目標実現に向けての学習に結びついていない。また、受験に向けた学習への取りかかりが遅い生徒が多い。 																	
達成目標	① 1・2年生：進路目標設定率（2月の進路志望調査までに、以下の目標について取り組みの満足度と達成した生徒の割合）		② 3年生：希望進路達成率（各自の希望進路（11月の模試で決めたもの）が達成できた生徒の割合）															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>2 年</th> <th>1 年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進路目標</td> <td>進学 志望学科、大学を2つ以内に決定</td> <td>進学 志望学部を2つ以内に決定</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>就職 希望業種、職種を決定</td> <td>就職 職業や企業を調べ、希望する職業が言える</td> </tr> </tbody> </table>	学年	2 年	1 年	進路目標	進学 志望学科、大学を2つ以内に決定	進学 志望学部を2つ以内に決定	就職	就職 希望業種、職種を決定	就職 職業や企業を調べ、希望する職業が言える	<table border="1"> <thead> <tr> <th>進 学</th> <th>就 職</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>志望校への進学が実現（内定） （第4志望校まで含める）</td> <td>就職が内定 （職種の変更は問わない）</td> </tr> </tbody> </table>	進 学	就 職	志望校への進学が実現（内定） （第4志望校まで含める）	就職が内定 （職種の変更は問わない）			
学年	2 年	1 年																
進路目標	進学 志望学科、大学を2つ以内に決定	進学 志望学部を2つ以内に決定																
就職	就職 希望業種、職種を決定	就職 職業や企業を調べ、希望する職業が言える																
進 学	就 職																	
志望校への進学が実現（内定） （第4志望校まで含める）	就職が内定 （職種の変更は問わない）																	
	取り組み満足度が90%以上 決定した(言える)生徒 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2年</th> <th>1年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進学</td> <td>90%以上</td> <td>70%以上</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>70%以上</td> <td>50%以上</td> </tr> </tbody> </table>			2年	1年	進学	90%以上	70%以上	就職	70%以上	50%以上	達成した生徒が <table border="1"> <tbody> <tr> <td>進学</td> <td>70%以上</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	進学	70%以上	就職	100%		
	2年	1年																
進学	90%以上	70%以上																
就職	70%以上	50%以上																
進学	70%以上																	
就職	100%																	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 本校の進路支援プログラムの事前・事後の進路学習を充実させ、年間を通じて連続的・継続的な進路研究の場を提供し、進路意識の高揚を図る。 生徒の学習や意欲などの実態を正確に把握することにより、進路目標の実現に向けた適切な支援を行う。 個々の生徒の学力や志望校の出題傾向を踏まえ、集団指導（補習・進路集会・進路冊子）や全教員による個別指導（教科添削・面接・小論文）の充実を図る。 入試の過去問を取り入れて実力を判断したり、過年度生の成績と進路実現の相関関係を照らし合わせるなど、各種のデータにより効果的な活用を行う。 																	
達 成 度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>(%)</th> <th>2年</th> <th>1年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足度(5段階以上)</td> <td>95.6</td> <td>94.9</td> </tr> <tr> <td>学部・学科の決定</td> <td>84.4</td> <td>77.7</td> </tr> <tr> <td>大学の決定</td> <td>78.7</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>業種の決定</td> <td>50.0</td> <td>53.3</td> </tr> </tbody> </table>	(%)	2年	1年	満足度(5段階以上)	95.6	94.9	学部・学科の決定	84.4	77.7	大学の決定	78.7	—	業種の決定	50.0	53.3	・進学： 72.0%(昨年度) ・就職： 100%	
(%)	2年	1年																
満足度(5段階以上)	95.6	94.9																
学部・学科の決定	84.4	77.7																
大学の決定	78.7	—																
業種の決定	50.0	53.3																
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間 ・進路集会(4月・9月) 進路希望調査(4・9・2月) ・出張講義(7月) 大学見学(2年5・11月) ・進路講話(2年12月) OBと語る会(2年就職希望者6月) 「進路資料集」(1・2年) ・「進路の設計」(2年)の配布 ・PTA自前講座(11月) オープンキャンパス・進路情報の提供 																	
評 価	2年： C 1年： A	進学： A 就職： A																
学校関係者の意見	・生徒に目標を立てさせて物事に取り組むことは、意欲的な態度と、結果に繋げていく上で効果的である。																	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 進路の取り組みが進路目標の達成にしっかり活かせるよう、事前、事後の指導を工夫する。 卒業後の姿を見据え、やるべきことを自覚し実行できるよう支援する。特に面接の頻度を多くすることが必要である。 																	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	特別活動（学校行事を通して自主的な態度の育成）
重点課題	学校行事に対する能動的参加の推進
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・主な学校行事として体育大会・石高祭・球技大会があり、多くの生徒はこれらの活動に意欲的に取り組み、集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築きながら自主性や連帯意識を育んでいる。 ・決められた計画に合わせて参加するだけでは活動意欲を失わせることにもなるので、よりよい学校生活づくりに参画、協働して充実感を得るために、各活動内容に応じて、生徒による自主的、実践的な態度が育成されるような配慮が必要である。
達成目標	① 学校行事（体育大会・文化部発表会・球技大会参加後の充実度） 4段階評価による3以上が80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・特活部会を定期的にもち、各活動が能動的なものにつながるように検討し、提案する。 ・生徒会活動を充実させ、代議員会等も適宜開催するなどして、生徒の視点から参画させることで、より多くの生徒が主体的に関われる場を設ける。 ・行事ごとに事後アンケートを実施し、その結果を踏まえ、今後の活動に改善を加える。
達 成 度	○ 体育大会の事後アンケート結果 ・大変楽しかった。60%、楽しかった。36% 96% ○ 文化部発表会の事後アンケート結果 ・大変充実していた。36%、充実していた。51% 87% ○ 球技大会の事後アンケート結果 ・充実していた。38%、まずまず充実していた。38% 76%
具体的な取組状況	○ 体育大会 生徒会が中心となって大会テーマや生徒会種目の競技について検討を進め、生徒の思いに沿った活動内容となった。アンケート結果から、楽しかった種目として「応援合戦（23%）」が1番にあがり、「タイヤ奪い（16%）」、「騎馬戦（13%）」と続いた。 3年生を中軸とした団編成による運営は、集団への所属感や連帯感を味わい、責任感と協力の態度を養った。また、全体を通して生徒の自主的・実践的な活動を助長する内容となった。 ○ 文化部発表会 合唱コンクールの取組については、各クラス活動において例年通り徐々に盛り上がりを見せ、能動的な活動に繋がった。生徒会フェスティバルでは、生徒全員が関われる工夫として全クラスの代表によるクイズ大会を企画したことにより、大勢の生徒が会場を埋め盛り上がりを見せた。一方で個人の出し物では、応募する生徒が少なく、やや物足りないという感想もあった。 また、茶道部による茶会は盛況で、部員たちは活動を通して充実感や存在感を味わった。2階展示会場では、従来通りの展示内容が多かったが、図書委員会など創意工夫された新規の取り組みもあった。 ○ 球技大会 生徒会執行部が中心となって計画し、今年度は新しい種目を取り入れて実施した。生徒会執行部や体育委員、またチーム代表やサッカー経験者等が大会運営にあたるなど集団活動の中で各々が役割を担い自主的、実践的な活動となった。
評 価	A
学校関係者の意見	各行事に対する取り組みについてはおおむね良好な結果となっている。球技大会の事後アンケート結果の数値がやや低いので、アンケート調査内容についての精査・工夫が必要だ。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部会を定期的に行い、言語活動をより充実させて意見をまとめさせたり、考えを深めさせたりして、よりよい学校生活を築き、社会に参画する態度や自治的能力の育成を図る。 ・アンケート等を活用して意見を集約するなどして生徒の視点により参画させることで、より多くの生徒が体験的、主体的に関われる場を設ける。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）